



2022年 11月4日 金曜日
(令和4年)

きょうは何の日

一の酉(とり)、ユネスコ
憲章記念日



知・技の創造

▷84◁

「装飾」とは、飾ること。我々に身近な装飾の一つとして、ファッションアイテムが美しく装うこと。また、その「愛着」とはなにか、親しんだものに深く心が引かれること。を意味します。私事になりますが、現在、行田市内花き農家応援花いっぱい運動に取り組んでいます。ヴェールカフェ(旧忍町信用組合)や忍城を装飾する「花飾建築」と題した花台を制作しました。そのため、装飾について考えることがしばしばあります。この王冠は、女王

が戴冠式から着用されていた。なご実用的機能に関係しないもので、ジョージ6世から譲り受け女王のために再デザインされたものです。国葬の際、女王の棺の上に、宝石の散りばめられた王冠が飾られていたのがとても印象的でした。松などがあります。

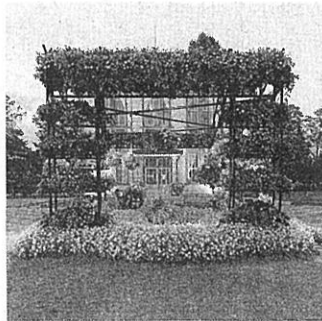
大竹 由夏 建設学科講師

装飾が愛着につながる



おおたけ・ゆか ものつくり大学講師。筑波大学博士後期課程修了。博士(デザイン学)。1級建築士。筑波大学博士特別研究員を経て現職。

花飾建築夕景



装飾は、その季節や時代のトレンドを取り入れたライトアップの開始。2013年、増上寺のフロシエクションマッピングの統を重んじながら発展してきました。そして、その装飾された人、建物、街への愛着へと結びつきます。私の研究室で制作した「花飾建築」も旧忍町信用組合や忍城、そして行田市への愛着につながると思います。

私が専門とする建築の分野では、「建築装飾」という言葉が使われます。鬼瓦や風見鶏のような厄除け魔除けのために取り付けられたり、欄間や襖のようにインテリアとして設えたり、構造物や間取り